

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	3611610035
法人名	医療法人 照陽会
事業所名	笠井病院グループホーム
所在地	徳島県阿波市阿波町元町7-1 (電話) 0883-35-2720

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 10 月 31 日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 6 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤6人、常勤換算:6.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	
	1 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	電気器具1個×50円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 6 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安田歯科医院、笠井病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは母体病院敷地の一面にあり、玄関周りは広々と開放感あふれる空間が確保されている。夏場は緑のカーテンとなっていた朝顔が窓際に晩秋の陽光を浴びて咲いていた。玄関先の水鉢には紅葉や椿の花などが入れられ、共用空間も明るく家庭を思わせるほっとする雰囲気漂っている。利用者の終末期の対応にも前向きに取り組み、安全で安心な利用者支援に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題についてはそれぞれ全職員で話し合い工夫・改善し、利用者に視点をあてた支援に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が評価に対して前向きな姿勢で取り組み、自己評価を行っている。また前回の改善課題についても計画を立てて工夫し、改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、家族、民生委員、地域住民、消防署員、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加している。会議では運営状況の報告や防災への取り組みについて話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームには意見箱を設置し、家族への配布書類には相談苦情受付担当者や公的相談窓口が明記されている。また家族の来訪時には声をかけるなどして気軽に相談できる体制が整えられている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の文化祭や祭りなどの行事、学校の文化祭などに参加している。また中学校の職場体験を受け入れたり、地域ボランティアの来訪があったりと積極的な交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で「地域の中でその人らしく生活すること」を支える支援を目標に事業所独自の理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングで理念を唱和し、日々のサービスの提供場面に反映されるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の文化祭や祭りなどの行事、学校の文化祭などに参加している。また中学校の職場体験を受け入れたり、地域ボランティアの来訪があったりと積極的な交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価に対して前向きな姿勢で取り組み、自己評価を行っている。また前回の改善課題についても計画を立てて工夫し、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、家族、民生委員、地域住民、消防署員、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加している。会議では運営状況の報告や防災への取り組みについて話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りや利用状況の報告を行うなど、行き来する機会をつくり連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には日常や行事の写真を見てもらいながら暮らしぶりを報告している。また年に4回発行するホーム便りや電話などでも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームには意見箱を設置し、家族への配布書類には相談苦情受付担当者や公的相談窓口が明記されている。また家族の来訪時には声をかけるなどして気軽に相談できる体制が整えられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなく、馴染みの職員によるケアが行われ、利用者との信頼関係が築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には全職員が受講できるよう配慮する運営者の姿勢がある。研修報告はカンファレンスで発表し、内容を全職員が共有できるよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と行き来する機会を持ち、意見交換などを行いサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	十分に話し合いながら、また、調整しながら利用の開始に向けているがやむを得ずいきなりサービス開始に至る場合は家族やそれまで関わっていた方々に来てもらい本人に安心感を持ってもらうよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から人生の先輩として戦争の話や昔の習慣などを教えてもらっている。また「ナスのからし漬」の作り方を教わるなどして共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いは日常的な会話や声かけを行うことから汲み取ることができるように取り組んでいる。意向の把握が困難な場合は利用者の表情や家族からの意見をもとに本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族の要望を聞き、利用者の視点に立ち、その人らしく暮らせるよう全職員で検討して作成している。計画書には家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は実情に応じた支援に繋がるよう利用者や家族と十分に話し合い、柔軟に見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて外出、送迎などを柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関に受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の支援はできる限り希望にそう方針で家族等との話し合いを行い、共有されている。看取り介護同意書も作成されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事の食べこぼしを片付ける際などには、利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや、さりげない支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や思いに配慮し、本人の希望にそって買物や散歩など望んでいるペースに合わせた暮らしが支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をし、旬の食材や新鮮な材料で盛りつけの工夫もされ、楽しみながら食事ができるよう配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせた入浴が支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意な分野で一人ひとりの力量を発揮できるよう洗濯をたたんだり昔話をしてもらったり、また外気に触れるなど利用者によく相談しながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季折々の花見に出かけたり、買物やドライブ、散歩を通じて外出の機会を作っている。またバーベキューやお誕生会なども趣向を凝らし事業所の中だけでなく戸外でも行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけていない。職員は常に利用者の行動に注意を払い、見守りを徹底している。外出しそうな気配を察知したら止めるのではなく、さりげなく声をかけて同行するなどし、安全面に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、母体病院と合同で消火、避難訓練を行い協力体制づくりに取り組んでいる。また日頃から地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体医療機関の管理栄養士により献立が立てられている。また食事や水分の摂取状況は毎日記録され、把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は打ち水をし、水鉢には紅葉の葉や椿・布袋菜の花が投げ入れられ、生活感が漂っている。共用空間は明るく開放的でソファにもクッションが置かれ、くつろげるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた時計やカーペット、布団があり、家族の写真も置かれて、安心して過ごせるように配慮されていた。		